

これからの小美玉市の小中学校の在り方を考える意向調査
規模選好と教育選好のクロス分析まとめ

I 分析手続き

(1) 小学校

①望ましい学級規模とのクロス集計

小学校の学級規模選好については、学級規模として20人以下が望ましいとする回答、21～30人が望ましいとする回答、31～40人が望ましいとする回答に分類した。この分類と「学校で身につけてほしい能力」、「学校で力を入れて取り組んでほしいこと（取り組むべきこと）」「学校の望ましい在り方」とのクロス集計を行った。その結果、学級規模選好によって回答に差が出た項目を次のように分類した。

- A：大規模な学級（31～40人、教員の場合は21～30人）を希望するほど肯定的な回答（「ぜひ身につけてもらいたい」と「身につけてもらいたい」、「ぜひ取り組んでももらいたい（ぜひ取り組むべき）」と「取り組んでももらいたい（取り組むべき）」、「ぜひそうあってほしい」と「そうあってほしい」）の割合が高い傾向の項目
- B：小規模な学級（20人以下）を希望するほど肯定的な回答（「ぜひ身につけてもらいたい」と「身につけてもらいたい」、「ぜひ取り組んでももらいたい（ぜひ取り組むべき）」と「取り組んでももらいたい（取り組むべき）」、「ぜひそうあってほしい」と「そうあってほしい」）の割合が高い傾向の項目
- C：単純な傾向ではないが、学級規模選好との関連が見られる項目

②望ましい学校規模（学年の学級数）とのクロス集計

小学校の学校規模選好については、学年1～2学級が望ましいとする回答、3学級が望ましいとする回答、4学級以上が望ましいとする回答に分類した。この分類と「学校出に見つけてほしい能力」、「学校で力を入れて取り組んでほしいこと（取り組むべきこと）」「学校の望ましい在り方」とのクロス集計を行った。その結果、学校規模選好によって回答に差が出た項目を次のように分類した。

- A：大規模な学校（学年4学級以上）を希望するほど肯定的な回答（「ぜひ身につけてもらいたい」と「身につけてもらいたい」、「ぜひ取り組んでももらいたい（ぜひ取り組むべき）」と「取り組んでももらいたい（取り組むべき）」、「ぜひそうあってほしい」と「そうあってほしい」）の割合が高い傾向の項目
- B：小規模な学校（学年1～2学級）を希望するほど肯定的な回答（「ぜひ身につけてもらいたい」と「身につけてもらいたい」、「ぜひ取り組んでももらいたい（ぜひ取り組むべき）」と「取り組んでももらいたい（取り組むべき）」、「ぜひそうあってほしい」と「そうあってほしい」）の割合が高い傾向の項目
- C：単純な傾向ではないが、学校規模選好との関連が見られる項目

③学校規模対策とのクロス集計

小学校の学校規模対策については、学年1, 2学級で対策が必要とする回答、学年20名で対策が必要とする回答、学年10名, 5名で対策が必要とする回答に分類した。この分類と「学校出に見つけてほしい能力」、「学校で力を入れて取り組んでほしいこと（取り組むべきこと）」「学校の望ましい在り方」とのクロス集計を行った。その結果、学校規模選好によって回答に差が出た項目を次のように分類した。

- A：学年 1, 2 学級で対策が必要とするほど肯定的な回答（「ぜひ身につけてもらいたい」と「身につけてもらいたい」、「ぜひ取り組んでももらいたい（ぜひ取り組むべき）」と「取り組んでももらいたい（取り組むべき）」、「ぜひそうあってほしい」と「そうあってほしい」）の割合が高い傾向の項目
- B：学年 10 名, 5 名で対策が必要とするほど肯定的な回答（「ぜひ身につけてもらいたい」と「身につけてもらいたい」、「ぜひ取り組んでももらいたい（ぜひ取り組むべき）」と「取り組んでももらいたい（取り組むべき）」、「ぜひそうあってほしい」と「そうあってほしい」）の割合が高い傾向の項目
- C：単純な傾向ではないが、学校規模対策との関連が見られる項目

(2) 中学校

①望ましい学級規模とのクロス集計

中学校の学級規模選好については、学級規模として 30 人以下が望ましいとする回答と 31～40 人が望ましいとする回答に分類した。この分類と「学校出で身につけてほしい能力」、「学校で力を入れて取り組んでほしいこと（取り組むべきこと）」「学校の望ましい在り方」とのクロス集計を行った。その結果、学級規模選好によって回答に差が出た項目を次のように分類した。

- A：大規模な学級（31～40 人）を希望するほど肯定的な回答（「ぜひ身につけてもらいたい」と「身につけてもらいたい」、「ぜひ取り組んでももらいたい（ぜひ取り組むべき）」と「取り組んでももらいたい（取り組むべき）」、「ぜひそうあってほしい」と「そうあってほしい」）の割合が高い傾向の項目
- B：小規模な学級（30 人以下）を希望するほど肯定的な回答（「ぜひ身につけてもらいたい」と「身につけてもらいたい」、「ぜひ取り組んでももらいたい（ぜひ取り組むべき）」と「取り組んでももらいたい（取り組むべき）」、「ぜひそうあってほしい」と「そうあってほしい」）の割合が高い傾向の項目

②望ましい学校規模（学年の学級数）とのクロス集計

中学校の学校規模選好については、学年 1～3 学級が望ましいとする回答と 4 学級以上が望ましいとする回答に分類した。この分類と「学校出に見つけてほしい能力」、「学校で力を入れて取り組んでほしいこと（取り組むべきこと）」「学校の望ましい在り方」とのクロス集計を行った。その結果、学校規模選好によって回答に差が出た項目を次のように分類した。

- A：大規模な学校（学年 4 学級以上）を希望するほど肯定的な回答（「ぜひ身につけてもらいたい」と「身につけてもらいたい」、「ぜひ取り組んでももらいたい（ぜひ取り組むべき）」と「取り組んでももらいたい（取り組むべき）」、「ぜひそうあってほしい」と「そうあってほしい」）の割合が高い傾向の項目
- B：小規模な学校（学年 1～3 学級）を希望するほど肯定的な回答（「ぜひ身につけてもらいたい」と「身につけてもらいたい」、「ぜひ取り組んでももらいたい（ぜひ取り組むべき）」と「取り組んでももらいたい（取り組むべき）」、「ぜひそうあってほしい」と「そうあってほしい」）の割合が高い傾向の項目

③学校規模対策とのクロス集計

中学校の学校規模対策については、学年 2 学級で対策が必要とする回答、学年 1 学級で対策が必要とする回答、学年 20 名～5 名で対策が必要とする回答に分類した。この分類と「学校出に見つけてほしい能力」、「学校で力を入れて取り組んでほしいこと（取り組むべきこと）」「学校の望ましい在り方」とのクロス集計を行った。その結果、学校規模選好によって回答に差が出た項目を次のように分類した。

- A：学年2学級で対策が必要であるとするほど肯定的な回答（「ぜひ身につけてもらいたい」と「身につけてもらいたい」、「ぜひ取り組んでももらいたい（ぜひ取り組むべき）」と「取り組んでももらいたい（取り組むべき）」、「ぜひそうあってほしい」と「そうあってほしい」）の割合が高い傾向の項目
- B：学年20名～5名で対策が必要とするほど肯定的な回答（「ぜひ身につけてもらいたい」と「身につけてもらいたい」、「ぜひ取り組んでももらいたい（ぜひ取り組むべき）」と「取り組んでももらいたい（取り組むべき）」、「ぜひそうあってほしい」と「そうあってほしい」）の割合が高い傾向の項目
- C：単純な傾向ではないが、学校規模対策との関連が見られる項目

Ⅱ 分析結果のまとめ

*以下、問の番号は2011.7.14付の単純集計速報版と対応している。

3. 学校教育を通じて子どもたちに次のような能力をどの程度身につけてほしいと思いますか。それぞれの項目について、当てはまる選択肢の番号に○をつけてください。

表1 身につけてほしい能力と学級・学校規模についての希望の関係

		小学校学級 規模希望	小学校学年 規模希望	小学校規模 対策希望	中学校学級 規模希望	中学校学年 規模希望	中学校規模 対策希望
(1)読み書きや計算などの基礎学力	市民					A	
	保護者						
	小学校教員						
	中学校教員						
(2)自分で調べたり考えたりする力	市民						
	保護者		B				
	小学校教員		C				
	中学校教員						
(3)将来レベルの高い高校や大学に進学できる学力	市民						
	保護者				B		
	小学校教員	A					
	中学校教員						
(4)人前で自分の考えを分かりやすく述べる力	市民						
	保護者						
	小学校教員						
	中学校教員						
(5)意見の異なる人と議論する力	市民						
	保護者			A		A	A
	小学校教員		C				
	中学校教員						
(6)多様な文化や考え方を理解する力	市民						
	保護者						
	小学校教員						
	中学校教員						
(7)批判的に物事をとらえる力	市民						
	保護者			A	B		
	小学校教員						
	中学校教員						
(8)科学的に物事をとらえる力	市民						
	保護者	B		A		A	A
	小学校教員						
	中学校教員						
(9)集団活動に参加し、協同的に問題解決する力	市民		C				
	保護者				A		
	小学校教員						
	中学校教員						
(10)集団をまとめ、引っ張っていくリーダーシップ	市民						
	保護者				B		
	小学校教員	A					
	中学校教員						
(11)人間としての自分の生き方を考える力	市民						
	保護者						
	小学校教員						
	中学校教員						
(12)相手を思いやる気持ちや社会規範	市民						
	保護者						
	小学校教員			C			
	中学校教員						
(13)芸術を理解したり楽しんだりする感性	市民	C					
	保護者			A			
	小学校教員						
	中学校教員						

5. 学校で、次のことにどの程度取り組んでほしいと思いますか。それぞれの項目について、当てはまる選択肢の番号に○をつけてください。（これからの小／中学校では次のことにどの程度積極的に取り組むべきだと思いますか。それぞれの項目について、当てはまる選択肢の番号に○をつけてください。）

表2 取り組みへの希望／必要性認識と学級・学校規模についての希望の関係

		小学校学級	小学校学年	小学校規模	中学校学級	中学校学年	中学校規模
		規模希望	規模希望	対策希望	規模希望	規模希望	対策希望
(1)読み書きや計算の反復学習	市民						
	保護者	B			B		
	小学校教員						
(2)個人で調べて発表する学習	市民						
	保護者						
	小学校教員						
(3)グループで話し合ったり調べたりする学習	市民	B					
	保護者	A					C
	小学校教員						
(4)一人一人の子どもが自分に合った内容を学習する個別指導	市民	B					
	保護者	B			B		
	小学校教員						
(5)複数の教師が一緒に指導する授業	市民						
	保護者	B	A	A	B	A	A
	小学校教員						
(6)学級を分けて行う少人数授業	市民	B			B		
	保護者	B	A	C	B		
	小学校教員						
(7)職業体験などの社会体験活動	市民	C					
	保護者	B			B		
	小学校教員						
(8)高度な発展的内容の指導	市民						
	保護者	B		A			
	小学校教員						
(9)休日や夏休みなどの補習授業	市民						
	保護者	B			B		
	小学校教員						
(10)地域住民や保護者が協力する教育活動	市民						
	保護者	B	C				
	小学校教員		C				
(11)多目的スペースなどを使った自由な学習活動	市民						
	保護者						
	小学校教員						
(12)一人一人の子どもへの心の支援	市民	C					
	保護者	B			B		
	小学校教員						
(13)道徳教育の充実	市民						
	保護者	B			B		
	小学校教員						
(14)体育祭(運動会)や文化祭(学芸会)の充実	市民						
	保護者						
	小学校教員						
(15)様々な学年の子どもが一緒に取り組む活動	市民	C		B			
	保護者						
	小学校教員						
(16)小学校と中学校の一貫教育	市民		A			B	
	保護者	B		C	B		
	小学校教員						
(17)愛情込めたいしい生徒指導	市民						
	保護者	B	A			A	C
	小学校教員						
(18)中学校での部活動の充実	市民						
	保護者	C					C
	小学校教員						

7. 学校の望ましいあり方をどのようにお考えですか。それぞれの項目について、当てはまる選択肢の番号に○をつけてください。

表3 学校の望ましい在り方と学級・学校規模についての希望の関係

		小学校学級 規模希望	小学校学年 規模希望	小学校規模 対策希望	中学校学級 規模希望	中学校学年 規模希望	中学校規模 対策希望
(1)施設設備が安全である	市民						
	保護者	C			B		
(2)防音, 空調などの面で快適である	市民						
	保護者	B	C				
(3)図書や教材が充実している	市民						
	保護者						
(4)子ども一人ひとりに教師の目が行き届く	市民	B			B		
	保護者	B			B		
(5)子どもたち同士が励まし合って成長する	市民				C		
	保護者						
(6)子どもたちと地域住民の交流が活発である	市民	B					
	保護者						
(7)保護者や地域住民が学校に協力的である	市民	B					
	保護者	C			B		
(8)保護者や地域住民が意見を言いやすい	市民	B			B		
	保護者	B					
(9)保護者や地域住民に学校の情報が伝えられている	市民	B					
	保護者	B					
(10)教師が授業準備に十分な時間をかけられる	市民						
	保護者	B			B	A	
(11)教師同士が協力し合う	市民						
	保護者	B			B		

小美玉市立小中学校の規模及び配置の適正化に関する基本的な考え方 （構成案）

*四角囲み内は前回会議で出された意見。

1. 諮問事項と検討の経緯

- (1) 諮問事項とその背景
- (2) 本委員会の基本姿勢と検討の経緯

2. 小美玉市の学校教育がめざすべき方向性

(1) 学校で形成する人間像と能力

- ・ 確かな学力とたくましい体を持ち、郷土を愛する人づくり（知・徳・体）
- ・ 自己の信念を確立できる教育、心豊かで協調性のある教育
- ・ 社会的規範を身につけ、思いやりのある児童生徒の育成
- ・ 基礎学力を身につけ、人間としての生き方を考える力を身につける教育

アンケートでは、小美玉市の子どもたちにとくに次のような人間になってほしいという意見が多かった。

- ・ 社会規範を身に付け、他人を思いやることができるような人間
- ・ 他人に迷惑をかけず、物事の善悪をしっかりと判断できるような人間
- ・ 困難に負けず、たくましく生きる人間

また、とくに次のような力を身につけてほしいという意見が多かった。

- ・ 読み書きや計算などの基礎学力
- ・ 相手を思いやる気持ちや社会規範
- ・ 自分で調べたり考えたりする力
- ・ 人間としての自分の生き方を考える力
- ・ 人前で自分の考えを分かりやすく述べる力
- ・ 集団活動に参画し、協同的に問題解決する力

しっかりとした知識や思考力を基盤に、人間としての生き方を考える力を身に付け、他者とかわりながら社会を形成する人間を育成することが求められている。

(2) 学校の在り方と取り組み

- ・ 楽しく生き生きとした学校、児童・生徒同士が互いに信頼できる学校
- ・ 児童生徒と教師・保護者が常に話し合える雰囲気为学校づくり
- ・ 「豊かな学び」の表記を具体的に表してはどうか？
- ・ 学校は避難所の指定にもなっており、絶対に安全な場所でなければならないことから、耐震化等を含めた施設の安全面等を表記すべきでは？

アンケートでは、学校の在り方として次のような姿がとくに望ましいとされていた。

- ・施設設備が安全である。
- ・子どもたち同士が励まし合って成長する。
- ・子ども一人ひとりに教師の目が行き届く。
- ・教師同士が協力し合う。
- ・図書や教材が充実している
- ・教師が授業準備に十分時間をかけられる

この他、保護者からは「保護者や地域住民に学校の情報が伝えられている」「防音、空調などの面で快適である」ことを望む声も大きい。

学校における具体的な取り組みについては、市民、保護者、教員ともに次の項目について「ぜひ取り組んでもらいたい」あるいは「ぜひ取り組むべきである」とする意見が多かった。

- ・読み書きや計算の反復学習
- ・一人ひとりの子どもの心の支援
- ・道徳教育の充実
- ・グループで話し合ったり調べたりする学習
- ・中学校での部活動の充実

これらに加えて、小、中学校教員では次のような取り組みにぜひ取り組むべきであるという意見が多かった。

- ・学級を分けて行う少人数授業（小学校教員）
- ・一人ひとりの子どもが自分に合った内容を学習する個別指導（小学校教員）
- ・複数の教師と一緒に指導をする授業（小学校教員、中学校教員）
- ・個人で調べて発表する学習（小学校教員、中学校教員）
- ・体育祭（運動会）や文化祭（学芸会）の充実（中学校教員）

これらの他、次のような取り組みに対する希望や必要性の認識も高かった。

- ・職業体験などの社会体験活動（市民、保護者）
- ・愛情込めた厳しい生徒指導（市民、保護者、中学校教員）

つまり、安全な環境の中で、知・徳・体のすべての面にわたって、子ども一人ひとりに応じる教育活動と集団の中で子どもを成長させる活動の双方の必要性が認識されている。そのために多様な学習形態や指導形態の工夫が求められている。

(3) 学校教育の実態と課題

アンケートによると、とくに身につけてほしいという意見が多かった項目の中で、小、中学校の教員が「とても身につけている」あるいは「身につけている」としている割合が40%を超えているのは、「読み書きや計算などの基礎学力」「相手を思いやる気持ちや社会規範」「集団活動に参画し、協同的に問題解決する力」である。「自分で調べたり考えたり

する力」は小、中学校とも40%に届かず、「人間としての自分の生き方を考える力」は30%に届かない。「人前で自分の考えを分かりやすく述べる力」に至っては小学校でおよそ20%、中学校でおよそ10%である。知的な側面、社会的な側面の双方において基礎的な力は育っているものの、積極的に知識を獲得したり、人間としての在り方を考えたり、他者とかかわったりする力の育成については課題を残している。

学校の在り方については、「施設設備が安全である」「図書や教材が充実している」「教師が授業準備に十分時間をかけられる」の3項目について小、中学校のおよそ50%以上の教員が「あまり当てはまらない」あるいは「当てはまらない」と回答しており、施設設備の安全、図書・教材の充実、教師の多忙という面で課題のあることがうかがわれる。

また、ぜひ取り組んでほしい（取り組むべきである）という意見の多かった項目の中で、「読み書きや計算の反復学習」「グループで話し合ったり調べたりする学習」「一人ひとりの子どもの心の支援」「体育祭（運動会）や文化祭（学芸会）の充実」「愛情込めた厳しい生徒指導」は小、中学校とも力を入れて取り組まれている。その他、小学校では「個人で調べて発表する学習」「道徳教育の充実」に、中学校では「部活動の充実」に、それぞれ力を入れて取り組まれている。しかし、ぜひ取り組んでほしい（取り組むべきである）という意見の多かった項目の中でも、「一人一人の子どもが自分に合った内容を学習する個別指導」「複数の教師と一緒に指導する授業」「学級を分けて行う少人数指導」は小、中学校ともに力を入れて取り組まれている割合が低い。また、小学校での「職業体験などの社会体験活動」、中学校での「個人で調べて発表する学習」「道徳教育の充実」もそれぞれ力を入れて取り組まれている割合が低い。全体的に、基礎的な教育活動と学習支援は充実しているものの、一人一人の個性に応じた指導や個や集団を活かす多様な指導形態、学習形態の工夫という面では課題を残している。

(4) これからの学校のビジョン

①基本的な方向性

②小中一貫などの新しい学校づくり

・「小中一貫など」が入らない新しい学校づくり

3. 学校規模の適正化についての基本的な考え方

(1) 学校規模（学年の学級数）の標準と対策必要規模

- ・小中とも1学年2～3学級とする
- ・1学年20名で対策を考える、又は1学級で考える
- ・小学校1学年2学級以上、中学校1学年3学級以上とする（上限を付けるべきか?）

小学校について、アンケートでは市民、保護者、小、中学校教員いずれも2学級あるいは3学級が望ましいとされている。ただし、市民と保護者は学年20名で対策が必要とする割合が最も高かったが、小学校教員は学年10名で対策が必要とする割合が最も高かつ

た。

中学校について、アンケートでは市民、保護者、小、中学校教員いずれも3学級あるいは4学級が望ましいとされている。また、いずれも学年1学級で対策が必要とする割合が最も多い。免許外担当が生じないようにすることは、市民、保護者、小、中学校教員いずれからも重視すべきとされており、とりわけ中学校教員はその割合が高い。

(2) 学級規模についての考え方

- ・ 1学級児童生徒数は20～30人くらいとする
- ・ 学級規模は将来のための学力向上競争ができる3～5学級がよい
- ・ 1学級35名以下とする（小中学校ともに）

アンケートでは小、中学校とも、市民、保護者、小、中学校教員いずれも1学級あたり21～30人が望ましいとする割合が最も高い。複式学級をつくらないことは、市民、保護者、小、中学校教員いずれからも重視すべきとされており、とりわけ小学校教員はその割合が高い。

(3) 教職員配置についての考え方

- ・ 教員数の増員要望（国・県へ）を行っていく、また市独自の教職員配置を実施する

(4) その他

- ・ 市民の理解を得るには「児童・生徒で考えるための教育」を強調する
- ・ 小学校は小規模でもいいのではないかと

4. 学校配置の適正化についての基本的な考え方

(1) 通学区域の見直しについての考え方

- ・ 通学距離の問題は、バス(スクール)で解決する。近い生徒は徒歩での対応
- ・ 通学区域を全廃し、どこの学校にも行けるようにしてはどうか？
- ・ 通学区域の見直しは行うべき

(2) 学校の統合についての考え方

- ・ 市内の小学校（6校程度）、中学校（2～3校）に
- ・ 小中一貫校を考える必要あり（中学校を1つにして小学校3校を統合）
- ・ 通学区域を見直し統合を積極的に考える
- ・ 統廃合は慎重に考えて実施（少数・多数のメリット・デメリット等）
- ・ 学校の統合についても行うべき
- ・ 小学校で70人以下は統合。特に少ない学校は統合が必要

(3) 通学手段についての考え方

- ・通学時間が40分以上かかる区間についてはスクールバスの運行を実施

4. 適正化の進め方についての基本的な考え方

(1) 市民の理解

- ・広く市民全体の理解を得る内容にするのか、適正配置が該当する地域住民に向けて表記するのか、意見が分かれた。
- ・小学校区単位の地区懇談会を開いて理解を得る

(2) 学校・保護者・地域・行政の連携

5. 具体的な統合案について（グループ討議の中で出た追加項目）

- ・これについては、基本方針を答申した後に実施計画を検討委員会で作成するため、基本方針の中ではいらないのではないかと（委員長より）

資料

- ・小美玉市の学校規模の変化と推計
- ・市民アンケート単純集計